

伊吹山の山岳信仰

伊吹山頂遺跡

伊吹山麓は、滋賀県における縄文遺跡の密集地のひとつです。約4,000年前の縄文時代中ごろから、伊吹山の水と山の恵みをよりどころに集落が営まれました。山麓の遺跡からは、子孫繁栄や豊穣をまつる石棒が20点以上みつかっています。これは、伊吹山に対する原始信仰の道具です。山頂からも、これまでに14点の石鏃や石のナイフ、石器を作ったときの破片が見つかっています。山に登った縄文人がいたようです。

古代には、英雄日本武尊を退けた荒ぶる神の棲む山として畏れ敬われ、平安時代には日本の「七高山」のひとつに数えられて薬師悔過の行がおこなわれました。山頂一帯は「蓮上」とよばれました。山岳修行の最終目的地を指し、弥勒堂が中央に鎮座する伊吹山の広大な山頂(下の写真)は、その景観からも神仏がおられる蓮華坐を思わせます。山中の遺跡や伝承地は、山岳信仰や雨乞い祈願にまつわるものがたくさんあります。明治12年に三角点が設置された際も、弥勒仏1体・刀剣2振・鏡2枚の出土が伝えられています。

雨乞いのために江戸時代の農民がはじめた太鼓踊りは、山麓の多くの村々で踊られていました。登山口上野の太鼓踊りは、かつて伊吹山中の寺社や洞窟などに願いをかけ、山頂弥勒堂前で松明を焚いて雨を祈りました。太鼓踊りは、北近江全域から西美濃地方に集中して分布し、その中心には伊吹山があります。このことは、伊吹山の神が水の神であることを物語っています。



伊吹山頂の行場遺跡

・弥勒堂／伊吹山修驗道の中心的な堂舎で、地誌や18世紀前半の絵図にもここを目指して登拝する人々が描かれています。かつては、多くの石塔・石仏が祀られていました。

・經塚／山頂部の西、中尾根の近くにあり、電柱敷設の際に出土品があったと伝えられます。山麓のどこからも見える位置にあります。南弥勒堂も經塚跡とされます。

・三ツ頭、ハツ頭／三ツ頭は山頂西尾根の三つの斜面の頂点にあたり、雨乞い踊りの一行が勢ぞろいした場所とされます。ハツ頭は白竜さんとも呼ばれ、現在は御嶽教信者の聖地とされます。美濃側ではヤマタノオロチの伝承地です。

・黒竜社／白竜さんと尾根を隔てて対峙する山頂北東尾根の小山で、トタニの岩屋やイブキ大明神の遙拝所と伝えられます。

・獅子舞岩／山頂から東遊歩道を辿ると左手にある獅子舞を彷彿させる大岩です。

・百間廊下／自然の風化侵食によってできたものと思われ、弥三郎の住まいの跡であるとか修驗の行場だと言い伝えられています。石灰岩の岸壁ではさまれたU字形の空間が奥に向かって傾斜しながら約15m続きます。

・七高山石／百間廊下の正面にある大岩をさします。このあたり一帯も行場とされます。

・鞍掛岩／伊吹弥三郎の泉水の北東尾根上にあります。地誌に「常に動ぐ石」と記され、行場のひとつと考えられます。

・地獄谷(岩)／伊吹山頂北東板名古川の上流の渓谷で、修驗の行場の一つとの伝承があり、地獄岩はのぞきの行場であったといいます。

※植物保護のため踏み込みが禁止されている所があります。



伊吹山頂平面図



弥勒堂古写真（絵葉書より）



三ツ頭



ハツ頭(白竜)



現在の弥勒堂



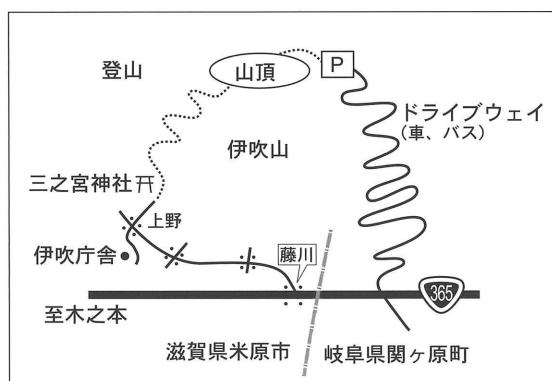
七高山石



百間廊下



南弥勒堂



伊吹山頂遺跡

- 所在地 滋賀県米原市上野（伊吹山）
- アクセス JR東海道本線関ヶ原駅下車 バス利用

米原市教育委員会

滋賀県米原市長岡1050-1 TEL.0749-55-4552

平成25年度 埋蔵文化財活用事業